

演題番号：A3

## センサーカメラを用いた養豚農場の野生動物侵入防止対策

○森内誠子，下田智彦

三重県南勢家保

1. はじめに：令和元年6月に県北部で野生いのししの豚熱感染が確認されて以降、野生いのししでの感染が拡大し、令和2年6月には当家保管内市町でも感染個体が確認された。三重県ではこれまで養豚農場に対し、農場侵入防護柵等の支援により野生動物侵入防止対策の強化・促進を行うとともに、野生いのしし対策として捕獲の強化、経口ワクチンの散布、豚熱検査体制の構築を実施してきた。また、農場では飼養衛生管理基準の徹底により高いレベルの豚熱対策が実施されている。一方で、全国の養豚農場での豚熱の散発発生が継続している。豚熱ウイルスの農場への侵入要因は、主に野生動物、特にいのししからの伝播によるものと考えられることから、センサーカメラを活用した養豚農場の野生動物侵入防止対策を実施した。

2. 材料および方法：令和3年6月から令和4年1月に、県内の養豚農場周囲の侵入防護柵付近にWEB通信機能付センサーカメラを設置し、農場周辺での野生動物の生息状況を農場にリアルタイムに共有する対策を開始した。

3. 結果：管内養豚農場12戸に設置されたカメラから、特にA市内の農場付近でいのししの撮影回数が多いことが判明

した。そこで、これらの農場では、カメラ設置期間を令和4年2月末まで延長し、野生動物対策指導を継続して行った。

(1) A農場では、農場防護柵の間から農場内に侵入するいのししが撮影されたため、柵の補強を指導。(2) B農場では従業員及び外来者の出入り口を新設し、更衣の前後に利用する経路を一方通行とし、ウイルスの侵入防止対策を行った。(3) C農場では、養豚農場と家保、県関係部署、県畜産協会等が協力して農場周囲にネットを設置。地面に垂らしたネットがいのししの掘り返しや、ジャンプの防止に繋がり、ネット設置前は平均55回/月だった撮影回数が19回/月に減少した。また、各農場のいのしし撮影情報を猟友会に提供し、農場付近での捕獲強化を依頼した。

4. 考察および結語：カメラの設置により、農場周囲のいのししの有無が明確化し、農家には危機感を持って対策に取り組んでもらえた。また、猟友会や県関係部署等の協力を得ることで、家保職員の豚熱汚染リスクを抑えながら対策を行うことができた。